



# 開物成務

令和6年2月26日(月)発行

校長 津田 千由美

## ゆずり葉の心

季節外れの暖かさが数日間続き、花壇のパンジーも今年3回目の花を咲かせています。この時期になると、いつも思い出すのは、河井醉茗作の「ゆずり葉」という詩です。以前5年生の国語の教科書にも載っていました。

子供たちよ

これはゆずり葉の木です

このゆずり葉は

新しい葉が来ると

入れ代わって古い葉が落ちてしまうのです

こんなに厚い葉 こんなに大きい葉

でも新しい葉が来ると無造作に落ちる

新しい葉にいのちをゆずって…



「ゆずり葉」とは、冬でも葉をつける常緑樹の木です。「ゆずり葉」は、若葉が出始めても古い葉が残り、若葉が出そろってから古い葉がまとめて枯れます。その様子が、まるで子どもの成長を見届ける親のようであることから、別名「親子草」とも言うそうです。

1年の締めくくりの時期となった今、開成小学校では、上級生から下級生へ、先生から子どもへ「ゆずり葉の心」のバトンタッチがされています。



<異学年交流遊び>

## 全校のリーダー〜5・6年生の交流〜

アフターコロナの1年目となり、今年度はいろいろな学校行事や特別活動などにおいて、見直しが進められてきました。「6年生おめでとう集会」もその一つです。コロナ前までは卒業式に全校が参加していましたが、儀式的行事であるという特質から、子どもたちの創意工夫を式の中で叶える難しさがありました。そこで今年度からは、卒業式には全校の代表として5年生が参加すること、1〜5年生が6年生に感謝を伝える全校集会を行うということが決まりました。この全校集会が「6年生おめでとう集会」です。5年生の子どもたちが計画し、運営することになりました。

学校全体を動かすという役目は、5年生にとって初めての大きな舞台。メッセージカードづくりや在校生の歌の指導など、実際の取組は委員会ごとに役割分担をして進めています。

先の見通しが持てず準備が間に合わなかったり、仲間とうまく折り合いがつかずに作業が滞ってしまったり、いろいろな失敗がありながらも一つずつ乗り越えているところです。6年生も、初めからこのようにリーダーシップが取れていたわけではありません。上級生の姿を見て学び、経験や失敗から学んだからこそ、今の姿があるのです。ここにも「ゆずり葉の心」が引き継がれています。

### 第3回学校運営協議会

2月15日(木)、今年度最後の学校運営協議会が行われました。5時間目の授業を参観し、その後、今年度の学校評価結果に関する報告と来年度の学校経営方針等について協議をしました。

委員の方々からいただいた主な意見は、次のとおりです。

- ・ 掲示物や授業への参加の仕方などから、4月の頃よりも子どもたちの成長が感じられ、どの学級も落ち着いて授業を受けることができていました。
- ・ 教室の整理整頓や清掃が行き届いている状態を今後も保ちたいです。こうした環境設定の継続が、子どもたちの落ち着きに繋がると思います。
- ・ 昼休みの音楽発表会は大変良かったです。子どもたちも先生たちも笑顔になる時間でした。
- ・ 総合的な学習の時間の成果や取り組みを、もっと広く啓発活動につなげていってはどうでしょうか。子どもたちの意欲にも繋がると思います。

いただいたご意見については教職員とも共有し、今後の教育活動に生かしていきたいと思っております。委員の皆様、1年間学校の応援団となり支えていただき、心より感謝申し上げます。



## おもちゃ大会へご招待～1・2年生の交流～

2月9日（金）2～3校時、2年生が1年生を「おもちゃ大会」に招待しました。2年生は、生活科の学習で11月に「手作りおもちゃ」の制作に取り組みました。このときの経験を生かしながら、今回は「1年生に楽しんでもらいたい」という願いをもち、2年生全員の手で体育館いっぱいにおもちゃの国が出来上がりました。

9時半になり、どのブースも準備万端です。1年生がやってくるのを今か今かと待っていました。2年生の胸は高鳴ります。

「ドキドキする」「楽しみだな」「早く来ないかな」  
どの子もやる気に満ちたキラキラした目をしていました。

しばらくしてやってきた1年生は、大きな手提げ袋を片手に  
「2年生がお土産くれるんだって！」

と嬉しそうに教えてくれました。体育館に広がるおもちゃの国を見た途端、1年生も2年生に負けないうくらいキラキラと目を輝かせていました。

遊びのやり方やルールを説明する2年生、感謝の気持ちを伝える1年生…あちこちですてきな交流が生まれていました。

「来年の今頃は私たちの番」1年生からそんな声が聞こえてきそうです。この日の楽しい思い出は、きっと引き継がれていくことでしょう。



## 「竹の花」との出会い

3年生は、この1年間、総合的な学習の時間を使って開成町をいろいろな角度から見つめ、学びを深めてきました。

2月1日（木）には、瀬戸屋敷を訪れました。社会科で「道具とくらしのうつりかわり」を学び、その発展的学習として昔の建物の構造や道具などを見学したり、説明を聞いたりしました。この体験を通して、人々の知恵や工夫が生活に変化をもたらし、今につながっていることに気付いていきました。

帰り際、一人ひとりにとっても貴重なお土産をいただきました。「竹の花」です。

「竹の花」は、「120年に一度」しか咲かないと言われているそうです。一生に二度とない貴重な体験をさせていただき、子どもたちには忘れられない思い出となりました。



## 福祉体験集大成

1月25日（木）、4年生が総合的な学習の時間に、手話サークルさんをお招きし、手話体験をしました。手話の歴史や簡単な手話などについて学びました。

4年生は今年度、車いすやアイマスク、点字体験などを通して障がい者の生活を身近に感じたり、地域の福祉センターに出向きご老人と交流したりしています。物の見方が広がり、相手の気持ちに寄り添う大切さに気付くきっかけとなりました。

現在は、1年間の学びについて、タブレットを使いスライド形式でまとめています。3月には、他学年にプレゼンテーションをする予定です。

総合の学習にも「ゆずり葉の心」が、しっかりと引き継がれています。

「小学校生活を充実させるために親にできること」というコラム欄にこんな記事をみつけました。一番大事なのは、日常生活や学校での出来事を、親が子どもと一緒に驚き、喜び、楽しむことです。「ありがとう」「いいね」「うれしいね」「えらかったね」「おもしろいね」という「あ・い・う・え・お」を意識しましょう。

では、子どもが帰宅して、学校での嫌なことを訴えたとき、親はどうするとよいのでしょうか。子どもと一緒に嘆き、悲しむのでしょうか。

「あなたはどうしたい?」「いやだったね」「うかない顔（に気づくこと）」「えらかったね」「お手伝いしてほしいことある?」

話をすると、こんな感じですよ。

（帰宅した子どもCのうかない表情に気づいたお母さんMとの会話）

M 「元氣ないんじゃない。学校で何かあった?」  
C 「おかあさん、今日ね、〇〇ちゃんにいじわるされたんだ。『消しゴム貸して』と言ったのに、貸してくれなかった。□□ちゃんには貸してあげてたのに、私には貸してくれなかった。」  
M 「それは、いやだったね。でも、我慢したんだ。えらかったね」  
C 「あなたは、どうしたい?」  
M 「もうどうでもいいや」  
C 「お母さんに何かお手伝いしてほしいことがあれば、また教えてね」

この「あ・い・う・え・お」は、子どもが自分で考え、自分で判断する「自律」の心を育む言葉かけです。多くの失敗から学んだ私からの「ゆずり葉の心」：受け取ってくださいと嬉しいます。

わたしのひとりごと…

